

邦楽 アドバイザー



和久 文子 箏

日光市出身。日本屈指の名演奏家である沢井忠夫・一恵両氏に師事し、沢井箏曲院教授、沢井忠夫合奏団主力メンバーとしてCD録音・TV等国内外で活躍。指導者としても文部科学大臣賞や文化庁長官賞など数々受賞に導き、優れた演奏家を輩出している。県内外の小・中・高校においても邦楽スクールコンサートを40年間実施、教育・福祉活動に大きな力を注ぎ、文化庁委嘱・伝統文化子ども教室や、学校芸術家派遣事業等において育成事業を継続している。元宇都宮大学非常勤講師。全国生涯学習音楽指導員協議会名誉会長、宇都宮ユース邦楽合奏団団長を務めるほか、小・中・高校においての放課後授業・部活動も幅広く指導している。日光市文化協会会長、宇都宮市文化協会副会長。また、とちぎ未来大使、日光観光大使を務める。平成15年度栃木県文化奨励賞受賞。平成16年度今市市政功労表彰(教育文化)。平成18年度宇都宮市長特別表彰(学校教育)。平成29年度栃木県文化功労章表彰。平成30年度宇都宮市長特別表彰。令和3年第2回大関作新館賞受賞。宇都宮短期大学音楽科客員教授。



前川 智世 三味線(三絃)

宇都宮市出身。9歳より宇都宮市立石井小学校こと部に入部し、和久文子に師事。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学音楽学部邦楽科・同大学大学院修士課程音楽研究科修了。在学中、常英賞受賞。2010年沢井箏曲院教師試験、首席登第会長賞受賞。2013年長谷校校記念第19回くまもと全国邦楽コンクールにて最優秀賞、文部科学大臣賞受賞。同年、NHK邦楽オーディションに合格。全国邦楽合奏協会邦楽コンクール全奏協賞受賞。NHK-Eテレ「にっぽんの芸能」に出演。2014年「前川智世 箏・三絃リサイタル」を開催。「うつのみや市民賞」受賞。現在、小・中・高等学校のスクールコンサート、ワークショップ等でも指導を行っている。とちぎ未来大使、日光観光大使、宇都宮愉快市民。日本三曲協会、栃木県三曲協会、宇都宮市文化協会、全国生涯学習音楽指導員協議会栃木・群馬、森の会、沢井箏曲院、邦楽ゾリスデン所属。宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。



福田 智久山 尺八

日光市出身。人間国宝 初代 山本 邦山、現在、二代 山本 邦山に師事。都山流准師範試験・師範試験首席登第。宇都宮短期大学附属高等学校特進コース卒。NHK邦楽技能者育成会50期卒。東京藝術大学別科尺八専攻修了。全国邦楽合奏協会邦楽コンクール全奏協賞受賞。文化庁「学校への芸術家等派遣事業」で高校、及び県内の小・中学校の「ふれあい文化教室」「邦楽スクールコンサート」で講師を務める。また、多数の立志式にて講演。文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業「楽しい音楽講座」・「伝統文化子ども教室」等、尺八講師。海外演奏も多く、スペイン・マドリッド市「白夜祭」に招聘演奏。国際交流基金により2008年「ブラジル移民百年祭」にて四都市公演。2010年ペルー、エクアドル共和国にて、全8公演。邦山会所属、とちぎ未来大使、日光観光大使、(公財)都山流尺八楽会会員、日本三曲協会会員、栃木県三曲協会会員、栃木県文化協会会員、宇都宮市文化協会会員。山本邦山合奏団、IWASHIYA、邦楽ゾリスデンにて活動。令和2年第1回大関作新館賞受賞。宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。



邦楽 ～ホールでの演奏に向けて～

箏

1. 本番に向けて

本番で使用する楽器の糸は切れそうではないか確認します。切れそうな場合には糸締めをしましょう。



2. 本番直前の準備

演奏前は練習においても本番においても手・楽器・お爪を清潔にしておくことが重要です。特にコロナ禍の中での演奏では、お箏のお爪の輪を消毒することが不可欠です。

お箏は事前に調絃することが必要な楽器です。「調絃を正確にとる」ということが上手になるための第一歩です。

舞台上で立奏台を使用する場合、ガタがないか確認し、ガタがある場合にはガタ止めをしましょう。本番中にはハプニングがつきものです。演奏中、万が一お爪が外れてしまったときに備えて、替え爪を持っておきましょう。ガタ止めも一緒に持っておくと安心です。

演奏する際の椅子や譜面台も自分に合った高さに調整しておきましょう。

3. 演奏中のポイント

演奏中は調絃の狂いに気をつけながら演奏しましょう。舞台では照明による温度差が生じ、糸が伸び、狂いやすくなります。また、一音弾いただけでもほんのわずかにズレます。これを直せるか直せないかで演奏の仕上がりに大きな差が生まれます。また、押し手の音程にも気を付けながら演奏しましょう。

三味線(三絃)

1. 本番に向けての楽器の準備

《皮》

皮の状態を見ましょう。本番当日の天気やホールの湿度によって皮の張りが変わります。湿気を多く含んでいる場合、駒を根緒の方へ詰めます。



《糸》

三味線の糸は本番前日に一の絃と二の絃を新糸に替え、よく伸ばしておきます。三の絃は本番の1時間～2時間ほど前に新糸にし、よく伸ばします。三味線の糸は絹糸でできているため、とてもデリケートなものです。演奏する直前まできちんとした調絃に整えます。

※三味線の糸の種類によっても伸び具合が異なります。

《サワリ》

三味線の一の糸を開放絃で弾くと、ビーンという響きが混じります。この音は三味線の最も重要な音色表現の一つで「サワリ」と呼ばれます。サワリは西洋音楽的な音楽観から見れば雑音に分類される音ですが、これを大切な味わいとして活かすところに日本の音楽観が見られます。サワリが上手くついているか否かでホールでの響き方が変わってきます。

2. いざ、本番

三味線を構え、姿勢と呼吸を整えます。暗譜をしている場合には目線は2m～3m先の床を見るようにします。構えが決まったら、動かないようにし、棹が下がらないように意識します。

三味線は構えがとても重要です。合奏の場合は相手の呼吸を感じとる

ように集中します。演奏中は調絃が狂わないように常に調絃を直しながら演奏します。舞台では照明が当たるので普段の練習以上に糸が伸び、調絃が狂いやすくなるので要注意です。ホールでは遠くに音を響かせるイメージで演奏しましょう。

3. 万が一の備え

万が一、本番での演奏中糸が切れてしまった時のため、事前に替三味線を用意しておきます。

尺八

1. 演奏会が決まったその日から

演奏会日が決まったら、そこから引いていき、1日前にはどうなっていたいか、3日前には、1週間前には、という感じで当日までにどういう感覚で舞台に上がるか意識しながら今現在から当日までの目標を(大まかで良いので)立てて過ごしましょう。



2. 本番で一曲を吹ききるには

一曲を吹くのに、その曲を二回通しで演奏出来るだけの体力が必要と考えています。つまり練習の時から本番の舞台をイメージして、余裕をもって演奏出来る体力作りが必要となります。

3. 本番当日

人間は行動のスピードと緊張が同調すると聞いた事があり、なるべく全ての行動を急がなくて済む様に、時間に余裕をもって会場入りし、その会場が持っている雰囲気にも慣れると共に、ウォーミングアップをし、心を落ち着かせて本番直前まで過ごします。

4. いざ演奏へ

幕がある舞台であればなるべくいつもの感覚で演奏出来る準備を(例えばフワフワして地に足がつかない時には、敢えて二、三回舞台を軽く踏みしめる)もしも幕のない会場であれば舞台へ上がるときから演奏は始まっている為、舞台袖のドアが幕と思うと良いでしょう。

5. 演奏が終わり…

反省は一頻りあると思いますが、それよりも舞台上では誰もが持てる力を余す事なく発揮します。それは良くも悪くもあり、悪い点で言えば普段は使わない筋肉を使って演奏をしてしまう為、運動と同じで終わったからこそその整理運動(軽く音を出し、いつもの感覚を身体に戻す)を心掛けましょう。

6. 「いつも通り」とは

その名の通り、「いつもやっているから出来る」という、云わば全ての物事の究極系であると考えます。色々な制約が人生であれど、毎日一曲で良いので練習しましょう。

『為せば成る、為さねば成らぬ何事も。成る業を、成らぬと捨つる人の儂さ。』

天気も移り変わる様に楽器にも性格があって気分もあるので、その時々を一緒に楽しんで音を出していきましょう♪